

### モーツァルト（對馬時男編）：歌劇《魔笛》より（ヴィオラ四重奏版）

《魔笛》は、1791年に作曲されたモーツァルト最後の歌劇。完成したのは、死の約二カ月前の9月28日（初演の2日前！）だった。本日お届けするのは、ヴィオラ四重奏のために《魔笛》の中から魅力的な音楽を選んで、對馬時男が編曲したもの。まず第1幕のタミーノがタミーナへの想いを歌うアリアから始まり、序曲の提示部、第1幕のフィナーレの一部、夜の女王のアリア、パパゲーノの「私は鳥刺し」と続き、最後は「パパパの二重唱」で締めくくるといったふうに、歌劇のストーリー順ではなく、緩急を重視した一つの楽曲として再構成されている。

### ボウエン：4つのヴィオラのためのファンタジー

ヨーク・ボウエンは20世紀前半に活躍したイギリスの作曲家。ジャンルを問わず非常に多作で、ヴィオラ協奏曲をはじめ、ヴィオラを含む室内楽作品も多い。このヴィオラ4本のためのファンタジー（幻想曲）は、演奏時間10分を超える曲で、1907年の作。後期ロマン派の香りが漂う曲調は、時に激しく、時に感傷に満ちた起伏を見せ、その濃密なロマンティシズムに心を揺さぶられる名作である。

### A. ロッタ：ディヴェルティメント

18世紀イタリアに生まれたアレッサンドロ・ロッタは、ヴィオラとヴァイオリンの名手であり、若きパガニーニの師でもあった。1808年に作曲されたこのディヴェルティメントは、ゆったりとした甘美な旋律を聴かせるアンダンテ・ソステヌートと、明るく軽快なアレグロ・ポラッカ（ポーランド風のアレグロ）という2つのパートからなる。

### 野平一郎：4つのヴィオラのためのシャコンヌ

本作は、ピアニスト・作曲家の野平一郎が、J.S.バッハ《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番》の終楽章「シャコンヌ」を、「ヴィオラスペース2000」の委嘱によりヴィオラ4本のために編曲したもので、ヴィオラ・アンサンブルの定番となっている（2000年初演）。野平によるバッハの「トランスフォルマシオン」のシリーズは、これを皮切りにその後も続いていく。